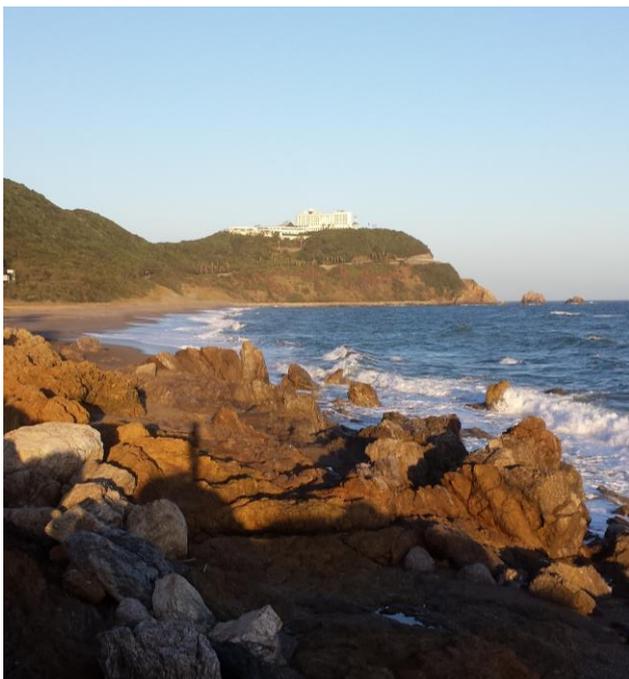


何にも追われず、何も負わず

第8期OB 石田 陽一朗



渥美半島の先端・伊良湖岬

タイトルは本文の内容と直接関係はございませんので、まずご理解下さい。ゼミ公認の個人紹介ページで、少し気の利いたタイトルのエッセイをずらっと並べ、時々ページを開いたときににやけるのがささやかな目標の第8期石田でございます。

新入社員でイオン各務原店へ配属、2013年9月にイオン田原店へ異動になり、私は現在、デイリー部門の主任として仕事しております。主任は当該部門の責任者をいい、その部門に対しての売上の責任を負う立場であり、発注や品出しの他に、販売計画作成、発注の全体チェック、人員計画作成、在庫や売変率の管理などマネジメントが主な業務となります。

デイリーとは牛乳、ハムソーセージ、パン、デザート等生鮮品を除いて日持ちがしない食品を扱う部門であり、基本的に発注は主任、パートさん、つまり人が行います。生活習慣や気温変化、地域ごとのイベント、世間の流行り、話題、会社全体のセールスなどに合わせて発注計画を練り、売場を作り、いかに売上をとるかを考えます。などと、大層なことを書きましたが、なかなか上手くは進みません。人員計画が上手くいかなかったり予想外のアクシデントがあったり実現できないことも多く、それをいかに事前計画を綿密に練り上手に実現させるかが主任の腕の見せ所であります。従来、無計画的な性格だった私もここで思い知らされる結果となり、細かい事前計画



著者が勤めるイオン田原店

の重要性を思い知っている最中でございます。

職場がある愛知県田原市は、三河地方で渥美半島の付け根に位置します。太平洋側を流れる暖流の影響で温暖、湿潤であり、1月下旬の現在でも、夜など春のような暖かさを感じる日も稀ではありません。そんな田原で、私は仕事と水泳、ホームシネマの日々を過ごしております。

水泳は中学高校と部活動で続けていたのですが、昨年などは久しぶりに母校の部活の合宿にOBとして参加する機会に恵まれ、また来年もせめて恥じない泳ぎで参加できるようにと、地元のスポーツクラブに通っております。大学時代は正直蔑ろになってしまっていた母校の活動への参加ですが、なぜか社会人になってからの方が気持ち的にも積極的になっています。理由をはっきりと述べることは出来ませんが、今になってやっと落ち着いて自分を振り返り、将来を考える時間がたっぷりと与えられ、自分が育ったかつての場所へ帰りその時の自分を感じたいと、そんな気持ちで母校へ帰ったのだと思います。11月に急に参加、というか傍聴させて頂いた小野ゼミのオープンゼミもそのような気持ちがあったことは事実で、無性に小野ゼミを感じたかったのです。これから生きていくなかで何かに行き詰ったりした時など、かつて自分が懸命に生きた場所がありそこへ帰ることが出来ればその時の自分に出会い立ち返ることが出来る、そんな意味でも「帰る」場所は大切であり、愛すべきなのであろうと2013年の帰郷を通じて感じました。その時代の自分がいて、同じ時間を過ごした同期がいて、恩師がいらっしゃる、無償で受け入れてくれる場所、つまり「家」なのであり、まさに「帰る」という言葉が合っているのだなと思いました。そのような「帰る」場所があるのは、とても心強く、これからの自分を気持ち的にも支えてくれるものにもなるだろうとも感じております。そんな場所がこれからも増えればとても嬉しく楽しいなと感じております。

尻切れで申し訳ございませんが、今年のエッセイとさせていただきます。またここに代わって会誌の編集に当たられている現役ゼミ生様へ、労いと感謝の意を申し上げたいと思います。

小野晃典先生、小野晃典研究会の皆様、本年もよろしくお願ひ致します。



今年度の第1回オープンゼミに訪問し、ゼミ生の前でトークをする著者